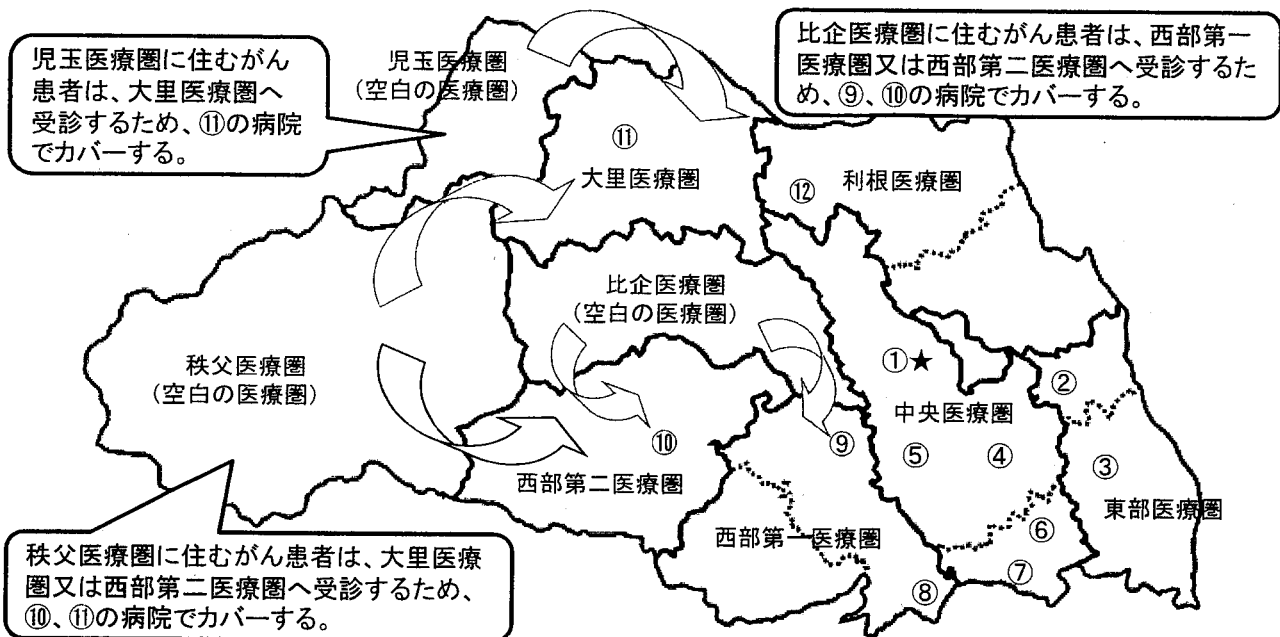


11 埼玉県

-273-

資料 1

埼玉県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



- ①★埼玉県立がんセンター(平成20年2月8日)
- ②春日部市立病院(平成19年1月31日)
- ③獨協医科大学越谷病院(平成20年2月8日)
- ④さいたま市立病院(平成19年1月31日)
- ⑤さいたま赤十字病院(平成20年2月8日)
- ⑥川口市立医療センター(平成20年2月8日)
- ⑦済生会川口総合病院(平成21年2月3日)
- ⑧国立病院機構埼玉病院(平成20年2月8日)
- ⑨埼玉医大総合医療センター(平成19年1月31日)
- ⑩埼玉医大国際医療センター(平成20年2月8日)
- ⑪深谷赤十字病院(平成18年8月24日)
- ⑫行田総合病院(平成19年1月31日)

-274-

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料2

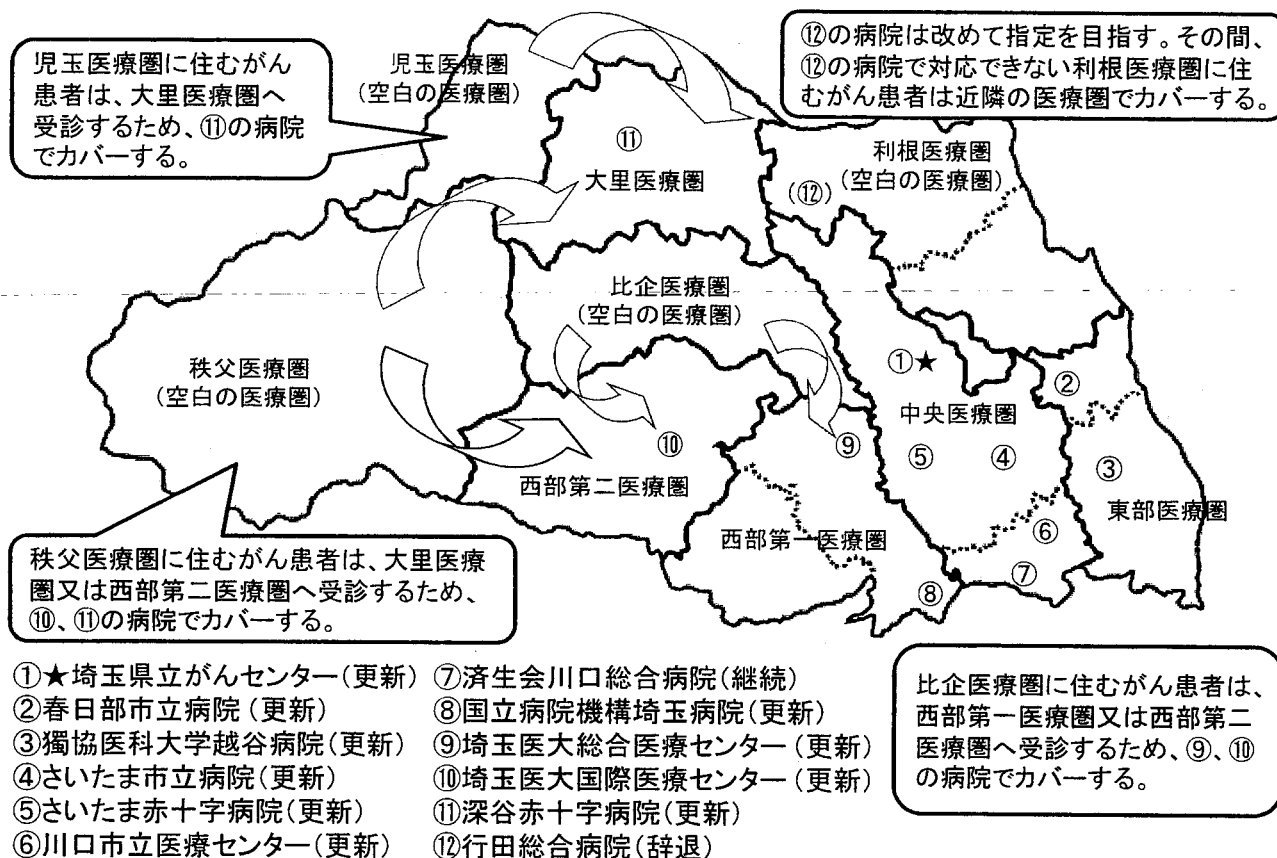
No.	更新/現況	申請区分	病院名	年間新入院がん患者数(1月~12月)		悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院時共同指導料2(6~7月の集計)
				年間新入院がん患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)		開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術粘膜炎切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数			
1	★更新		県立がんセンター	(2270)	(99.0)	(390)	(6)	(17)	(34)	(38)	(27)	(0)	(2)	(50)	(81)	(3)	(1309)	(50)	(894)	(2026)	(48)	(2285)	(0)
				7840	94.9	370	10	17	37	36	24	0	8	5	64	0	1407	65	236	2162	23	2248	0
2	更新		春日部市立病院	(940)	(22.4)	(40)	(1)	(1)	(3)	(1)	(4)	(2)	(3)	(0)	(6)	(0)	(137)	(0)	(45)	(199)	(2)	(414)	(0)
				1121	27.0	54	0	0	6	0	5	1	3	0	9	0	281	0	48	149	5	201	0
3	更新		獨協医科大学越谷病院	(2709)	(19.0)	(47)	(3)	(1)	(27)	(0)	(20)	(5)	(1)	(0)	(20)	(0)	(508)	(0)	(190)	(454)	(30)	(4)	(0)
				2520	18.0	170	0	9	15	0	15	1	5	0	22	0	533	0	197	256	52	26	0
4	更新		さいたま市立病院	(1378)	(12.3)	(58)	(2)	(6)	(5)	(0)	(16)	(0)	(1)	(0)	(4)	(0)	(192)	(36)	(119)	(88)	(6)	(27)	(29)
				2126	1.9	72	0	6	13	0	12	16	0	0	3	0	162	6	137	128	13	24	11
5	更新		埼玉赤十字病院	(2677)	(13.2)	(117)	(5)	(0)	(11)	(2)	(18)	(0)	(7)	(4)	(31)	(0)	(118)	(0)	(92)	(180)	(1)	(13)	(0)
				2726	19.0	142	5	6	19	1	25	11	7	6	32	0	284	0	188	195	15	55	0
6	更新		川口市立医療センター	(703)	(6.6)	(70)	(0)	(11)	(7)	(1)	(3)	(3)	(1)	(0)	(21)	(0)	(324)	(9)	(100)	(240)	(3)	(21)	(0)
				1733	16.5	254	7	1	10	0	13	3	3	2	22	0	257	10	88	144	7	81	0
7	現況		済生会川口総合病院	(2176)	(22.5)	(84)	(0)	(0)	(9)	(1)	(6)	(1)	(2)	(3)	(6)	(0)	(656)	(0)	(69)	(89)	(1)	(5)	(0)
				2019	20.6	88	0	0	11	1	11	2	0	0	7	0	132	0	117	179	6	35	0

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料2

No.	更新/現況	申請区分	病院名	年間新入院がん患者数(1月~12月)		悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院時共同指導料2(6~7月の集計)
				年間新入院がん患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)		開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術粘膜炎切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数			
8	更新		国立病院機構埼玉病院	(1319)	(17.7)	(62)	(0)	(0)	(9)	(0)	(7)	(0)	(7)	(1)	(0)	(0)	(193)	(85)	(36)	(147)	(14)	(20)	(0)
				1564	21.2	74	0	6	10	0	13	6	1	1	4	0	213	89	53	138	19	36	0
9	更新		埼玉医大総合医療センター	(680)	(4.0)	(276)	(2)	(9)	(20)	(0)	(36)	(0)	(1)	(1)	(16)	(0)	(778)	(37)	(233)	(262)	(7)	(27)	(0)
				1070	6.3	165	1	19	15	0	12	2	9	3	17	0	796	21	249	348	9	39	0
10	更新		埼玉医大国際医療センター	(4490)	(51.7)	(303)	(11)	(10)	(31)	(0)	(33)	(81)	(5)	(0)	(31)	(0)	(478)	(71)	(823)	(1197)	(6)	(417)	(0)
				3719	54.3	368	19	4	29	0	19	15	8	2	60	0	939	138	1545	1333	12	506	0
11	更新		深谷赤十字病院	(1701)	(16.3)	(59)	(2)	(1)	(6)	(0)	(15)	(6)	(1)	(0)	(14)	(0)	(175)	(0)	(119)	(74)	(17)	(50)	(0)
				1725	20.0	99	2	2	7	1	8	14	2	0	22	0	175	0	128	96	14	20	1
12	辞退		行田総合病院	(408)	(12.0)	(68)	(0)	(0)	(12)	(0)	(4)	(2)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(19)	(219)	(5)	(11)	(0)
				356	10.2	48	0	0	3	0	0	2	0	2	0	0	0	0	11	282	4	10	0

埼玉県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



-277-



埼玉県 指定推薦等に係る考え方

1 埼玉県の特徴

人口約717万人(全国第5位)

人口100万人を越える二次医療圏が3つ存在(東部、中央、西部第一)



人口のほか、日常生活圏、交通条件、生活基盤の整備状況等総合的な観点から勘案し、4つの二次医療圏にそれぞれ2つの「副次圏」を設定

※保健・医療・福祉に関する地域の中核機関である福祉保健総合センター・保健所の管轄区域も副次圏ごとに設置している。

地域がん診療連携拠点病院についても、総合的な観点から勘案し、二次医療圏内において1つの医療機関で対応することが難しいと考えられる場合は「副次圏」を単位として設定

2 同一医療圏に複数施設を設置している例

例1) 東部保健医療圏【春日部市立病院、獨協医科大学越谷病院】

【獨協医科大学越谷病院】

5大がんを中心とした多岐にわたる悪性腫瘍に対して、外科的治療、化学療法、放射線治療のいずれにおいても大学病院としての高い医療水準のがん治療を実施している。

【春日部市立病院】

血液がん、口腔がん等他病院での手薄な部分を補完するとともに、初診から末期がん在宅医療まで、大学病院では困難と思われるがん医療を実施している。

例2) 中央保健医療圏(南)【川口市立医療センター、済生会川口総合病院】

【川口市立医療センター】

埼玉県内で最新式の遠隔操作式小線源治療装置(ラルス)や最新のリニアックを導入して高度な放射線治療を実施している。また、乳がんや肺がんの手術件数が多く、済生会川口総合病院をはじめ、近隣の病院からの紹介を多数受けている。

【済生会川口総合病院】

画像診断では県内有数のPET-CTを導入しており、川口市立医療センターをはじめ、県南東部の各がん診療連携拠点病院からPET-CTの紹介を多数受けている。

例3) 西部第一医療圏【国立病院機構埼玉病院、埼玉医大総合医療センター】

西部第一医療圏だけでも人口100万人を超える大きな医療圏であるほか、隣接する比企保健医療圏が空白地域であることから、同地域を補完するためにも、両病院の指定更新により、質の高いがん医療提供体制を維持していく必要がある。

3 理由書が必要な拠点病院

【済生会川口総合病院(現況報告:平成21年2月3日新規指定)】

1 未充足項目

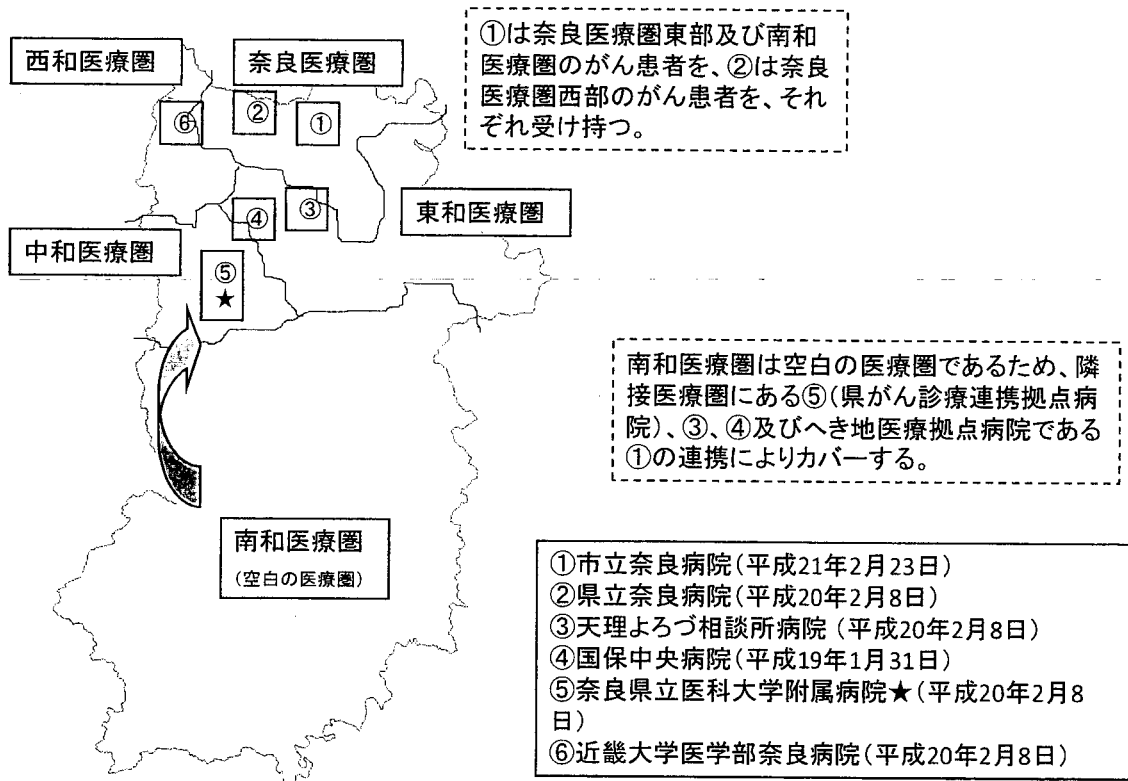
がん対策情報センター相談支援センター相談員基礎研修会(1)(2)の修了者

2 充足可能時期

平成22年3月に、基礎研修会(1)(2)の修了者を新たに採用予定。



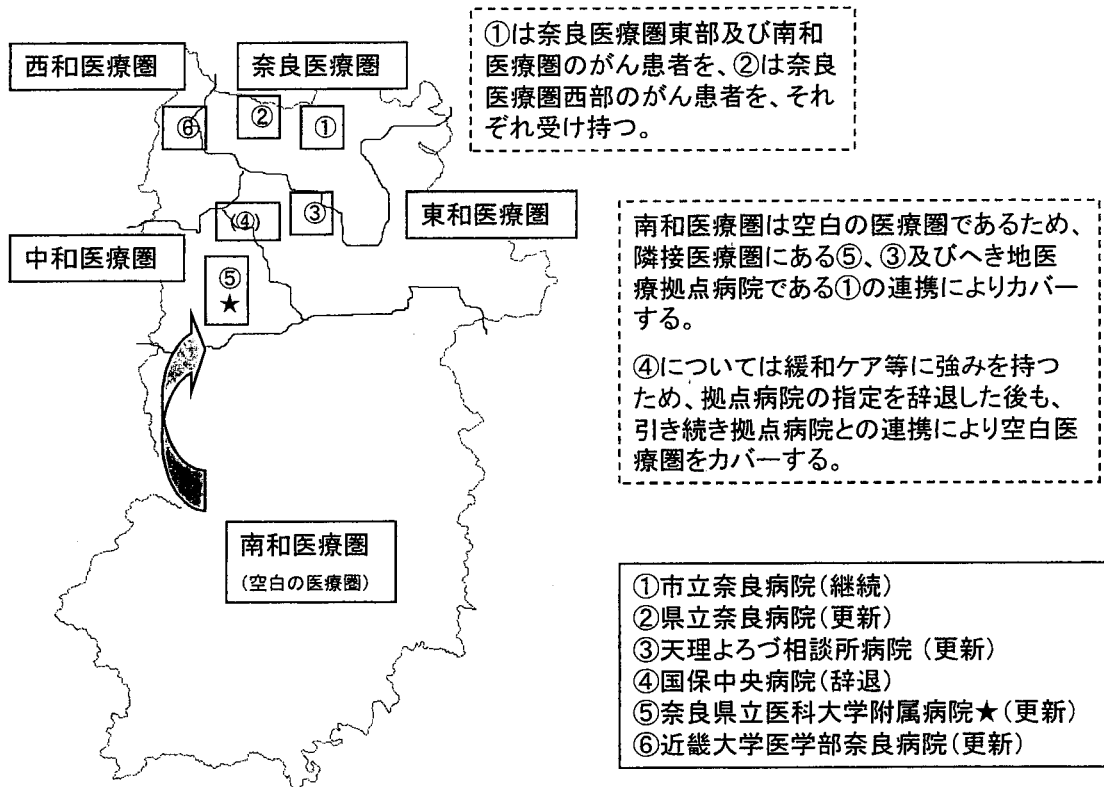
奈良県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計										年間患者実数(1月~12月)		薬物療法への患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院時共同指導2(6~7月の集計)	
			年間新入院患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		体外照射	小線源治療	入院患者数				外来患者数
						開胸手術	胸腔鏡手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの							
1	継続	市立奈良病院	(942) 1637	(16.6) 27.1	(60) 119	(0) 0	(0) 0	(5) 8	(0) 6	(9) 16	(16) 18	(1) 4	(3) 9	(27) 29	(0) 0	(106) 224	(0) 0	(102) 58	(232) 173	(4) 7	(0) 93	(0) 0
2	更新	県立奈良病院	(1768) 1753	(23.0) 22.1	(102) 105	(2) 5	(11) 7	(8) 12	(0) 0	(5) 7	(2) 0	(0) 0	(2) 2	(1) 1	(0) 0	(119) 134	(0) 0	(59) 89	(114) 92	(15) 14	(2) 71	(0) 0
3	更新	天理よろづ相談所病院	(4097) 4197	(27.2) 28.3	(187) 334	(9) 18	(28) 29	(16) 13	(0) 2	(1) 0	(5) 6	(4) 6	(14) 13	(20) 24	(1) 0	(603) 654	(15) 11	(357) 412	(220) 1133	(14) 15	(69) 50	(0) 0
4	辞退	国保中央病院	(565) 416	(17.1) 12.3	(19) 16	(0) 0	(2) 1	(1) 2	(0) 0	(2) 1	(4) 0	(0) 2	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(21) 27	(87) 163	(18) 11	(156) 101	(0) 10	
5	★更新	県立医科大学附属院	(3143) 3683	(25.8) 30.0	(259) 145	(0) 0	(19) 22	(8) 7	(0) 0	(12) 12	(4) 2	(4) 9	(4) 13	(5) 9	(0) 0	(835) 728	(69) 87	(176) 257	(318) 562	(7) 26	(12) 22	(0) 2
6	更新	近畿大学医学部奈良病院	(1711) 1773	(20.5) 21.5	(87) 167	(1) 2	(0) 6	(14) 13	(0) 4	(9) 15	(6) 55	(0) 0	(7) 2	(12) 2	(2) 2	(201) 200	(0) 0	(126) 134	(146) 187	(20) 7	(94) 9	(0) 0

奈良県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



-283-

今回の指定推薦等に係る奈良県の考え方について

1. 奈良医療圏における拠点病院の役割分担

- ① 地域における緩和ケアの推進・普及・人材養成
市立奈良病院: H24年度竣工を目処に、緩和ケア病床を新設
⇒ 奈良医療圏唯一の緩和ケア病床として、緩和ケアの推進・普及・人材養成
- ② より高度で専門的ながん医療の提供(得意分野への特化)
県立奈良病院: 消化器、肝臓がん
市立奈良病院: 乳がん、甲状腺がん及び緩和ケア

2. 南和医療圏(空白の医療圏)へのがん医療の支援

- ① 既存のがん診療連携拠点病院による連携→県全体としてがん医療を分担(予防及び早期発見、治療、緩和ケア等)

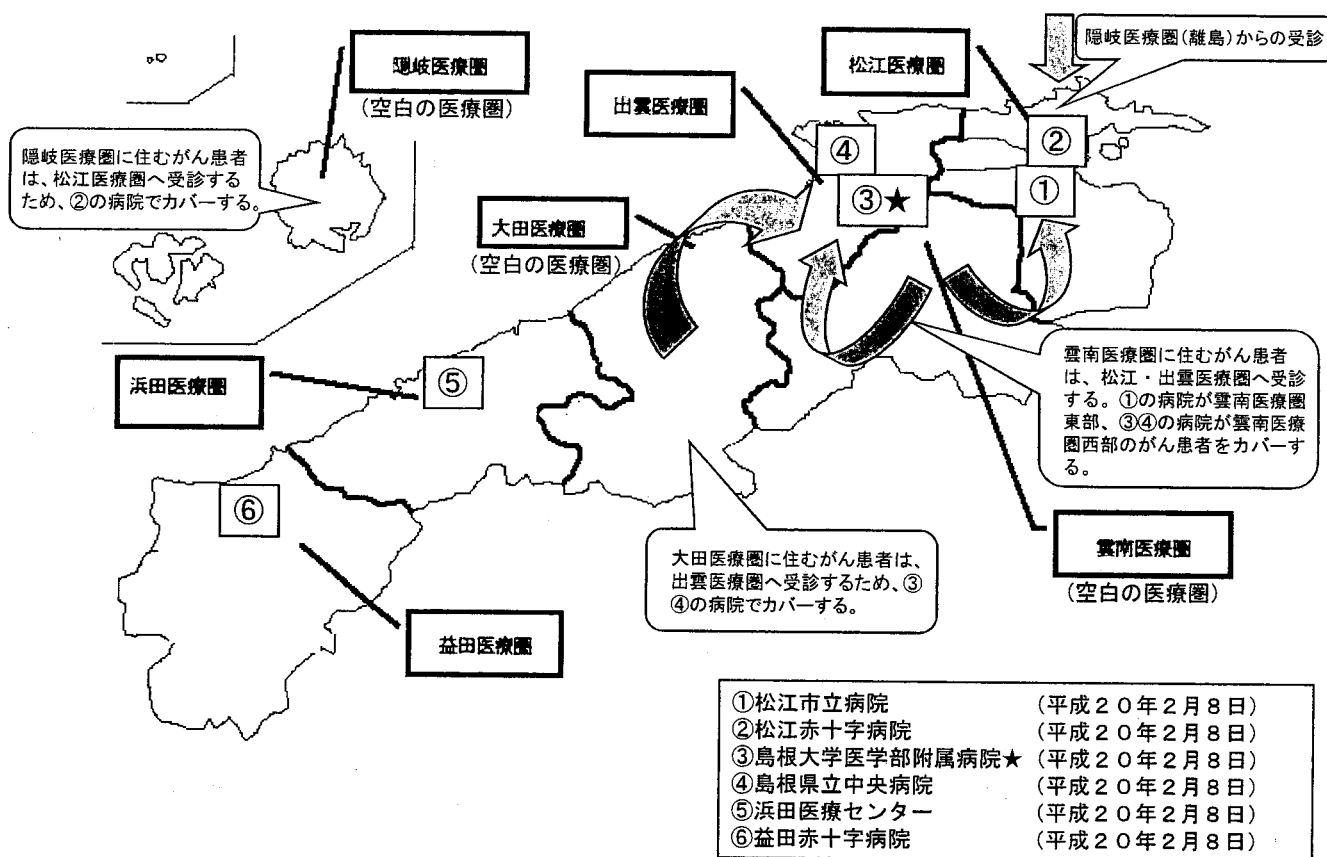
-284-

32 島根県

-285-

資料1

島根県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



-286-

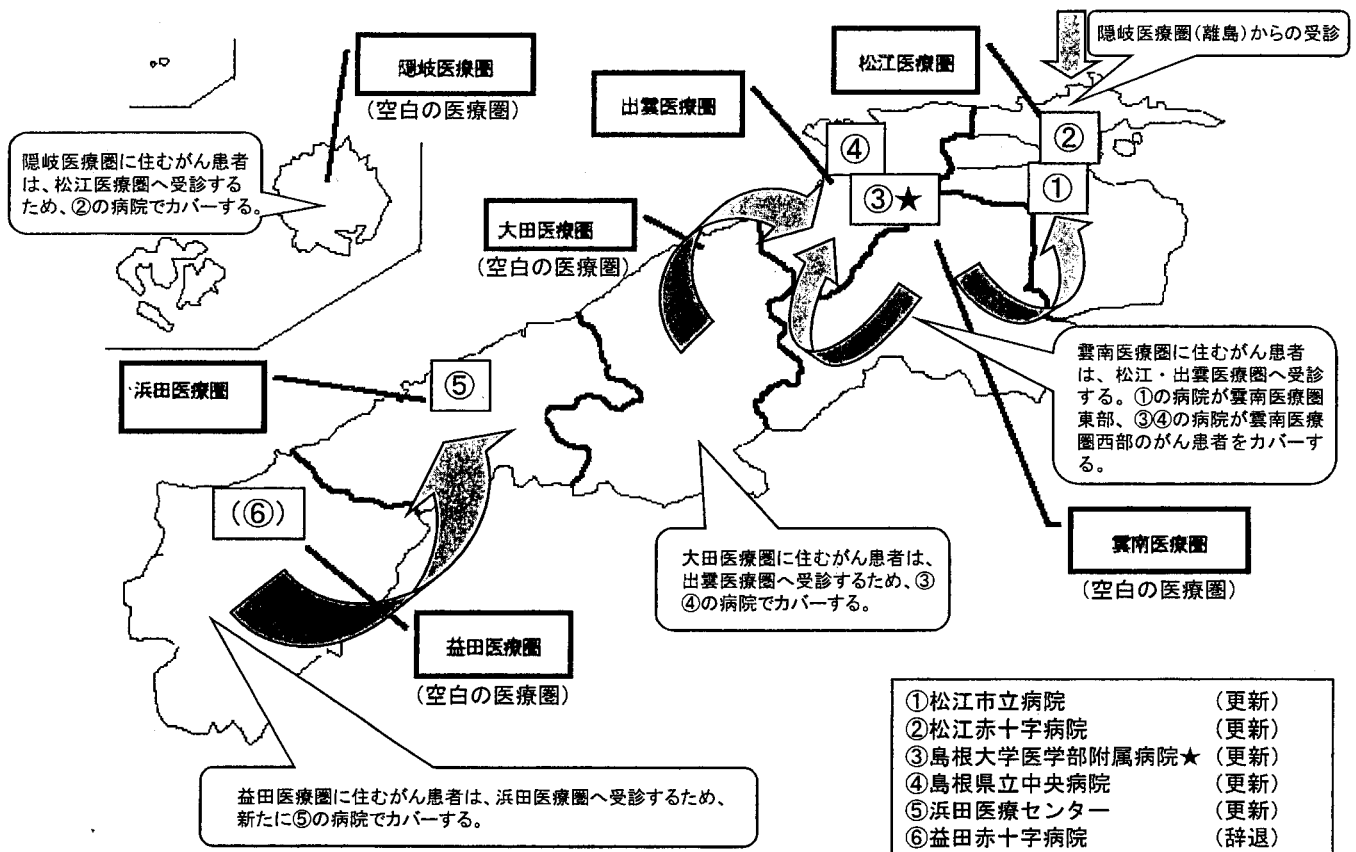
※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料2

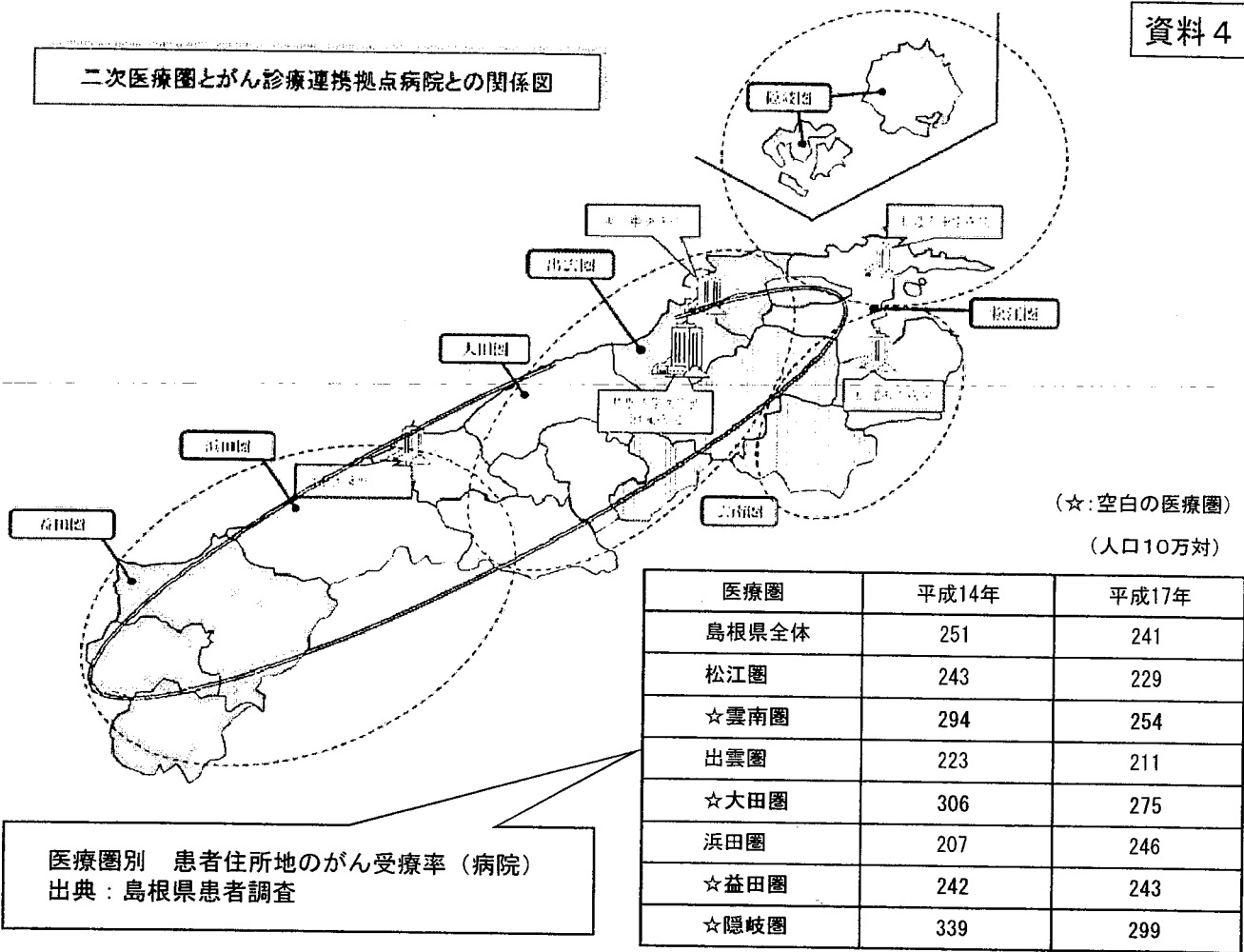
都道府県	申請区分	病院名	年間入院患者数の推移		がん種別(手術別)5-7月の10											年間患者実数(1月~12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)		相談支援センター相談件数(6~7月の集計)		退院共同指導料2(6~7月の集計)	
			平成20年	平成21年	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)	入院患者数	外来患者数	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院共同指導料2(6~7月の集計)					
			12/10	10/10	悪性腫瘍手術総数	開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術							乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの				
1	更新	松江市立病院	(1213) 1405	(15.8) 17.1	(82) 87	(3) 0	(5) 1	(7) 11	(0) 2	(10) 6	(3) 9	(2) 1	(0) 0	(8) 19	(0) 0	(182) 129	(0) 0	(74) 63	(231) 255	(4) 36	(14) 57	(0) 1			
2	更新	松江赤十字病院	(3091) 3262	(25.4) 27.8	(110) 137	(2) 1	(5) 9	(16) 11	(1) 2	(19) 24	(4) 5	(5) 1	(5) 6	(9) 14	(0) 0	(215) 204	(0) 0	(118) 126	(95) 120	(14) 8	(21) 31	(0) 0			
3	★更新	島根大学医学部附属病院	(2941) 3031	(30.0) 31.7	(180) 161	(1) 0	(13) 4	(5) 3	(0) 1	(10) 2	(5) 11	(6) 3	(17) 19	(13) 8	(0) 0	(342) 363	(64) 36	(211) 211	(132) 132	(21) 26	(77) 34	(0) 1			
4	更新	県立中央病院	(2919) 2743	(22.3) 21.5	(149) 162	(6) 0	(4) 2	(10) 17	(1) 0	(4) 12	(23) 29	(3) 2	(11) 13	(21) 16	(0) 0	(171) 186	(0) 0	(149) 166	(137) 169	(8) 4	(239) 131	(0) 0			
5	更新	浜田医療センター	(1503) 1477	(22.7) 22.8	(47) 44	(0) 0	(1) 1	(2) 8	(0) 1	(3) 4	(0) 0	(0) 0	(6) 0	(3) 3	(0) 0	(171) 190	(0) 0	(28) 32	(57) 51	(1) 1	(7) 4	(2) 0			
6	辞退	益田赤十字病院	(662) 576	(11.1) 9.9	(45) 38	(0) 0	(0) 0	(2) 4	(3) 1	(2) 2	(0) 1	(0) 0	(1) 6	(3) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(49) 38	(60) 60	(0) 6	(23) 8	(0) 0			

資料3

島根県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



二次医療圏とがん診療連携拠点病院との関係図



医療圏別 患者住所地のがん受療率(病院)
出典: 島根県患者調査

松江・出雲医療圏 各拠点病院がん入院患者 居住地医療圏別割合 (平成20年1月~12月)

病院名	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	隠岐圏	その他
松江市立病院	86%	11%	1%	0%	1%	1%
松江赤十字病院	79%	7%	2%	0%	9%	2%
島根大学医学部附属病院 ★	5%	13%	46%	15%	1%	20%
島根県立中央病院	2%	10%	68%	15%	1%	4%

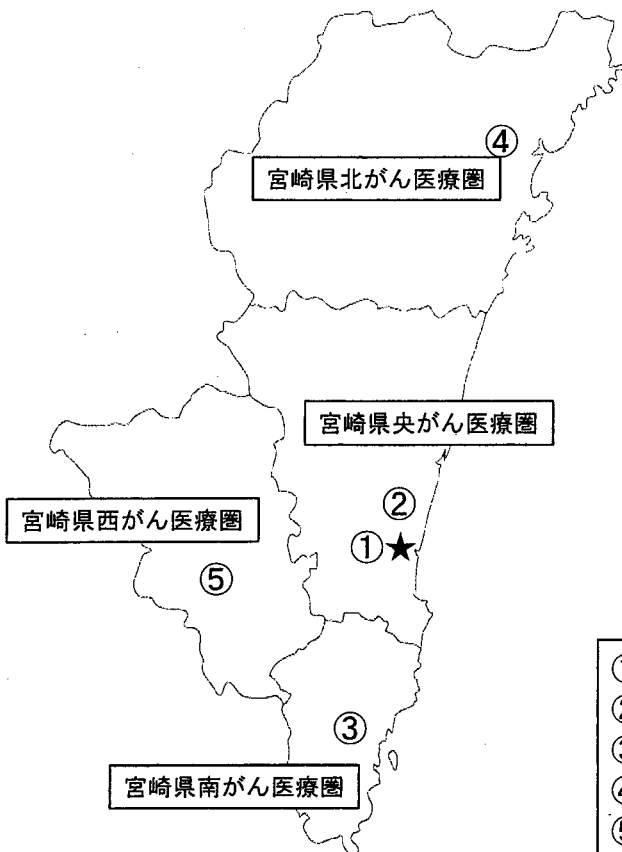
- 松江市立病院
 - ・松江医療圏南部の患者に対応しているほか、雲南医療圏東部の患者に対応
- 松江赤十字病院
 - ・松江医療圏北部の患者に対応しているほか、隠岐医療圏の患者に対応
- ★ 島根大学医学部附属病院
 - ・出雲医療圏の患者に対応しているほか、雲南医療圏西部及び大田医療圏の患者に対応
 - ・再発患者、難治性の患者を中心に、県内(浜田医療圏・益田医療圏含む)の患者に対応
- 島根県立中央病院
 - ・出雲医療圏の患者に対応しているほか、雲南医療圏西部及び大田医療圏の患者に対応
- 浜田医療センター
 - ・浜田医療圏の患者に対応しているほか、益田医療圏の患者に対応

45 宮 崎 県

-291-

資料 1

宮崎県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



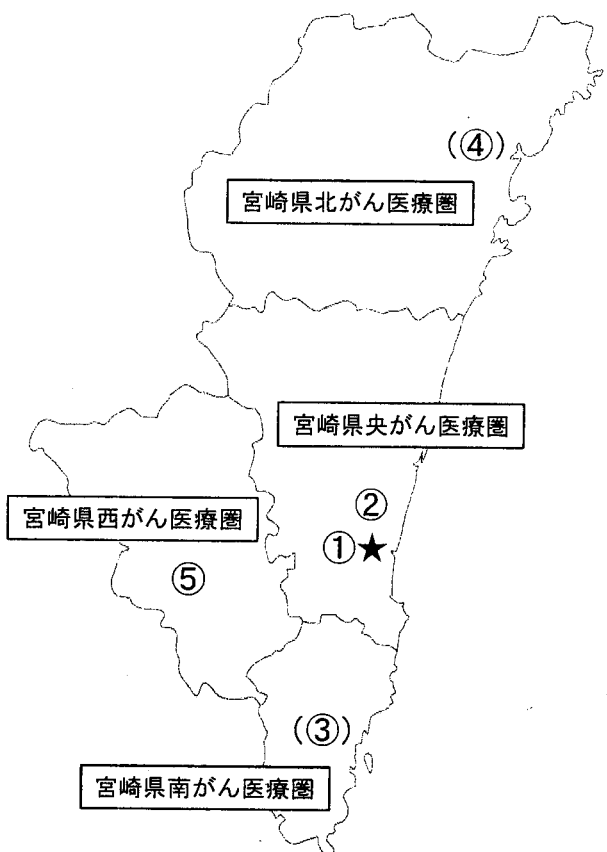
- ・ 本県では、従来から7つの2次医療圏を設けているが、がん医療については、その診療の特殊性と専門性に鑑み、2次医療圏の枠を超えた形でのがん医療の提供体制を整備する必要があるため、4つのブロックからなる「がん医療圏」を設定。
- ・ 「宮崎県央がん医療圏」には2つの拠点病院が存在するが、①宮崎大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内全域をカバーする機関、②県立宮崎病院は、宮崎県央がん医療圏の中核機関として位置づけ。

二次医療圏	がん医療圏	地域がん診療連携拠点病院	都道府県がん診療連携拠点病院
宮崎県北部 日向入渠	県北地区	県立延岡病院	宮崎大学医学部 附属病院
宮崎県東部 西都児島	県央地区	県立宮崎病院	
日向平岡	県南地区	県立日南病院	
都城北諸県	県西地区	国立病院機構都城病院	
西 諸			

- ①宮崎大学医学部附属病院★ (平成20年2月8日)
- ②宮崎県立宮崎病院 (平成20年2月8日)
- ③宮崎県立日南病院 (平成20年2月8日)
- ④宮崎県立延岡病院 (平成20年2月8日)
- ⑤国立病院機構都城病院 (平成20年2月8日)

No.	更新	都道府県	更新	更新	更新	更新	がん診療(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がん治療の連携		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談センター相談件数(6~7月の集計)	退院共同指導料2(6~7月の集計)		
							年間入院患者数の状況		肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)					薬物療法への患者数	
							年間入院患者数	年間入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	開胸手術	胸腔鏡手術	開腹手術	内視鏡手術・粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	内視鏡手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの				体外照射	小線源治療
1	★	更新	宮大附属病院	(2331) 1098	(27.6) 12.5	(164) 106	(18) 5	(1) 0	(5) 5	(0) 0	(2) 2	(0) 0	(7) 2	(1) 4	(2) 5	(0) 0	(321) 338	(49) 29	(81) 186	(189) 134	(4) 7	(36) 48	(0) 0		
2		更新	県立宮崎	(1968) 2146	(21.3) 23.8	(121) 131	(4) 9	(3) 1	(5) 3	(0) 2	(12) 14	(1) 0	(1) 0	(4) 0	(14) 12	(0) 0	(238) 271	(20) 26	(149) 133	(338) 309	(0) 14	(14) 1	(0) 0		
3		辞退	県立日南病院	(503) 936	(10.8) 21.1	(31) 31	(0) 0	(3) 1	(8) 7	(1) 0	(8) 5	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(93) 139	(0) 0	(57) 87	(39) 48	(1) 1	(14) 24	(0) 0		
4		辞退	県立延岡病院	(1441) 1361	(16.4) 17.1	(48) 33	(34) 0	(0) 3	(3) 1	(1) 0	(7) 3	(0) 1	(1) 0	(5) 0	(2) 3	(0) 0	(164) 179	(0) 0	(145) 96	(117) 37	(0) 1	(19) 72	(0) 0		
5		更新	都城病院	(359) 1320	(7.7) 28.6	(48) 37	(3) 3	(4) 0	(2) 9	(1) 0	(10) 3	(11) 0	(2) 0	(0) 0	(11) 11	(0) 0	(179) 205	(0) 0	(314) 112	(128) 57	(4) 8	(102) 117	(0) 0		

宮崎県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定推薦等状況	<ol style="list-style-type: none"> 3病院を指定更新推薦。2病院は推薦辞退。 医療圏の考え方については、変更なし。 「宮崎県央がん医療圏」には2つの拠点病院が存在するが、①は、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内全域をカバーする機関、②は、宮崎県央がん医療圏の中核機関として位置づけ。 今回の辞退で、2医療圏ががん診療連携拠点病院の空白医療圏となるが、各がん医療圏には、現在のがん診療連携拠点病院以外にがん医療の中核を担える医療機関がなく、各医療圏間の交通インフラも脆弱なため、引き続き辞退2病院も含めた5病院を中心にがん医療に対応する。(辞退2病院については、再指定に向け体制整備に努める)
患者受療動向	<ol style="list-style-type: none"> 患者住所の医療圏内の病院に入院する割合(がん以外も含む)は、各医療圏とも約9割と高い。 「宮崎県央がん医療圏」は、県内人口の5割近くが集中。
	<ol style="list-style-type: none"> ①宮崎大学医学部附属病院★ (更新) ②宮崎県立宮崎病院 (更新) ③宮崎県立日南病院 (辞退) ④宮崎県立延岡病院 (辞退) ⑤国立病院機構都城病院 (更新)

今回の指定推薦等に係る都道府県の考え方について

本県がん医療均てん化の制約条件

- 地理的制約 …… 県土が南北に長いうえ、高速道などの交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 …… がん医療の中核を担えるのは現在指定の5病院のみ
- 医師の不足 …… 一部の診療科などでの深刻な医師不足

推薦に当たっての考え方

○7つの2次医療圏の枠を超えた形での4つの「がん医療圏」5病院でのがん医療の提供

宮崎大学医学部附属病院(★都道府県がん診療連携拠点病院)

- ・県内全域をカバー
- ・県内唯一の特定機能病院

県立宮崎病院(県央地区がん医療圏)

- ・がん治療センター設置
- ・県内最多のがん治療件数

県立延岡病院(県北地区がん医療圏・辞退)

- ・県の地域医療支援病院に指定
- ・県土の4割の面積の医療圏をカバー

国立病院機構都城病院(県西地区がん医療圏)

- ・政策医療の中でもがん医療に注力
- ・相談支援体制の充実

県立日南病院(県南地区がん医療圏・辞退)

- ・圏域最多のがん治療実績
- ・かかりつけ医との密接な連携

必須要件の未充足状況について

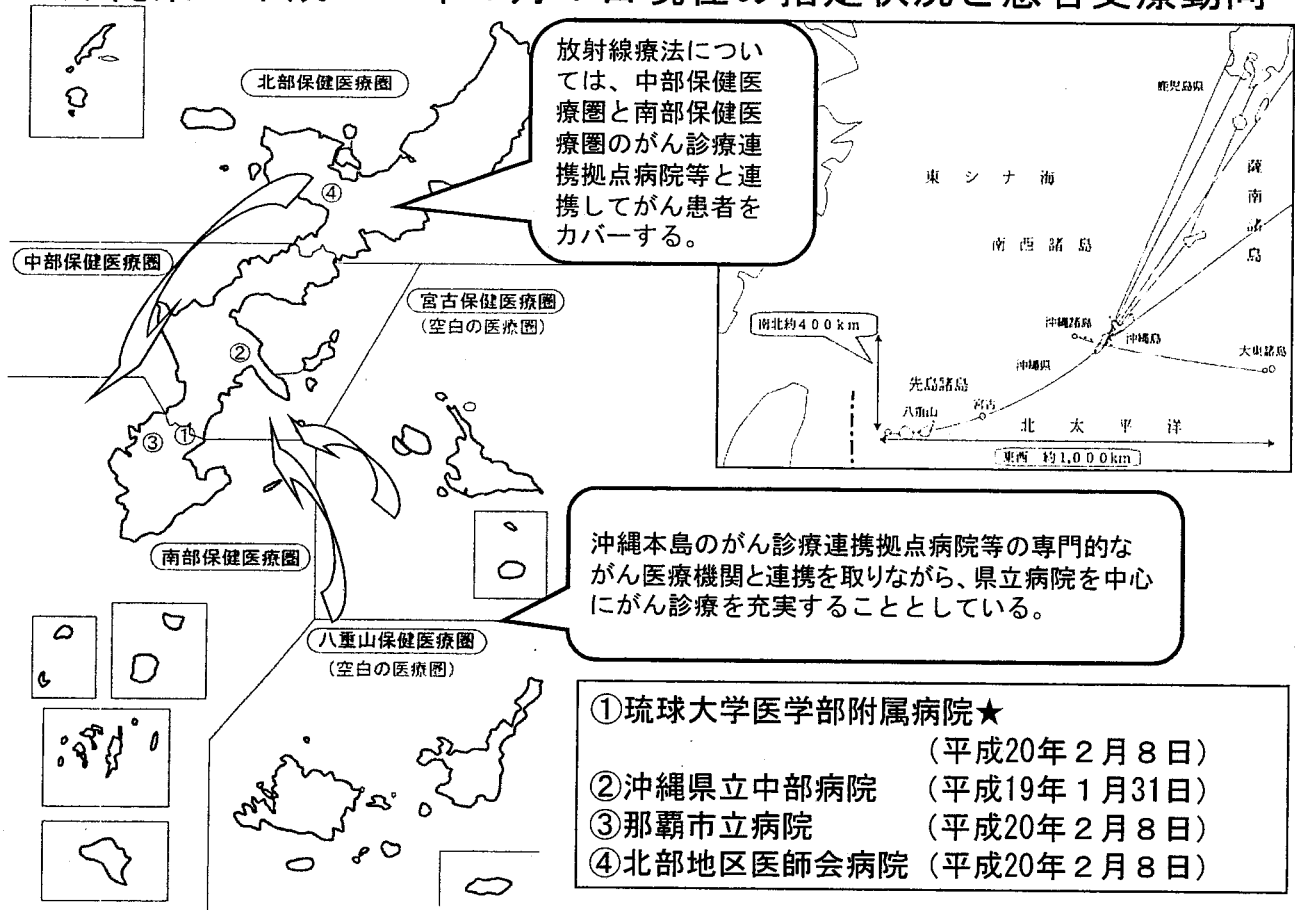
- 一部の必須要件が未整備の状況。
- 地域医療の抱える問題や、地方における医師・看護師等の深刻な不足など、それぞれの事情を斟酌いただき指定更新について御配慮いただきたい。

病院名	未充足の要件	未充足の状況	未充足の理由・今後の充足の見込み
宮崎大学医学部附属病院	当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が作成している地域連携クリティカルパスの一覧を作成・共有していること	一覧が未作成	<ul style="list-style-type: none"> ●地域連携クリティカルパスが、県内のいずれのがん診療連携拠点病院においても作成されていない状況にあり、一覧が作成できない状況 ●宮崎大学医学部が設置する「宮崎県がん診療連携協議会」に地域連携クリティカルパス専門部会を設置したところであり、今後県統一の地域連携クリティカルパスの作成・共有等を行う(平成23年10月末までには、当該要件を充足する予定)
宮崎県立宮崎病院	緩和ケアチームに、専従の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置していること	専従看護師が不在	<ul style="list-style-type: none"> ●緩和ケアチームに兼任の看護師は複数いるが、看護師自体が不足しており、常勤看護師の確保が困難な状況 ●平成22年4月から定員増により専従看護師を確保し、要件の充足予定
	相談支援センターに国立がんセンターがん対策情報センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置していること	専従相談員が研修受講要件を未充足	<ul style="list-style-type: none"> ●相談員が退職後、確保に難航。H21年10月に専従相談員を採用したため、研修受講要件が充足できない状況 ●研修受講要件を満たす相談員もいるが、退院調整などの業務も兼任しており、専従要件を充足できない状況 ●専従相談員については、来年度研修を受講させ要件を充足予定
国立病院機構都城病院	専従の病理診断に携わる医師を1人以上配置していること	専従医師が不在	<ul style="list-style-type: none"> ●常勤医を前提に求人を行っているが、現時点で確保の目処が立っていない ●現在は、非常勤医師(1名)とインターネットによる遠隔診断で対応 ●平成22年4月からは、非常勤医師をさらに1名追加し、術中迅速病理診断等にも不足のない体制を構築する予定

47 沖縄県

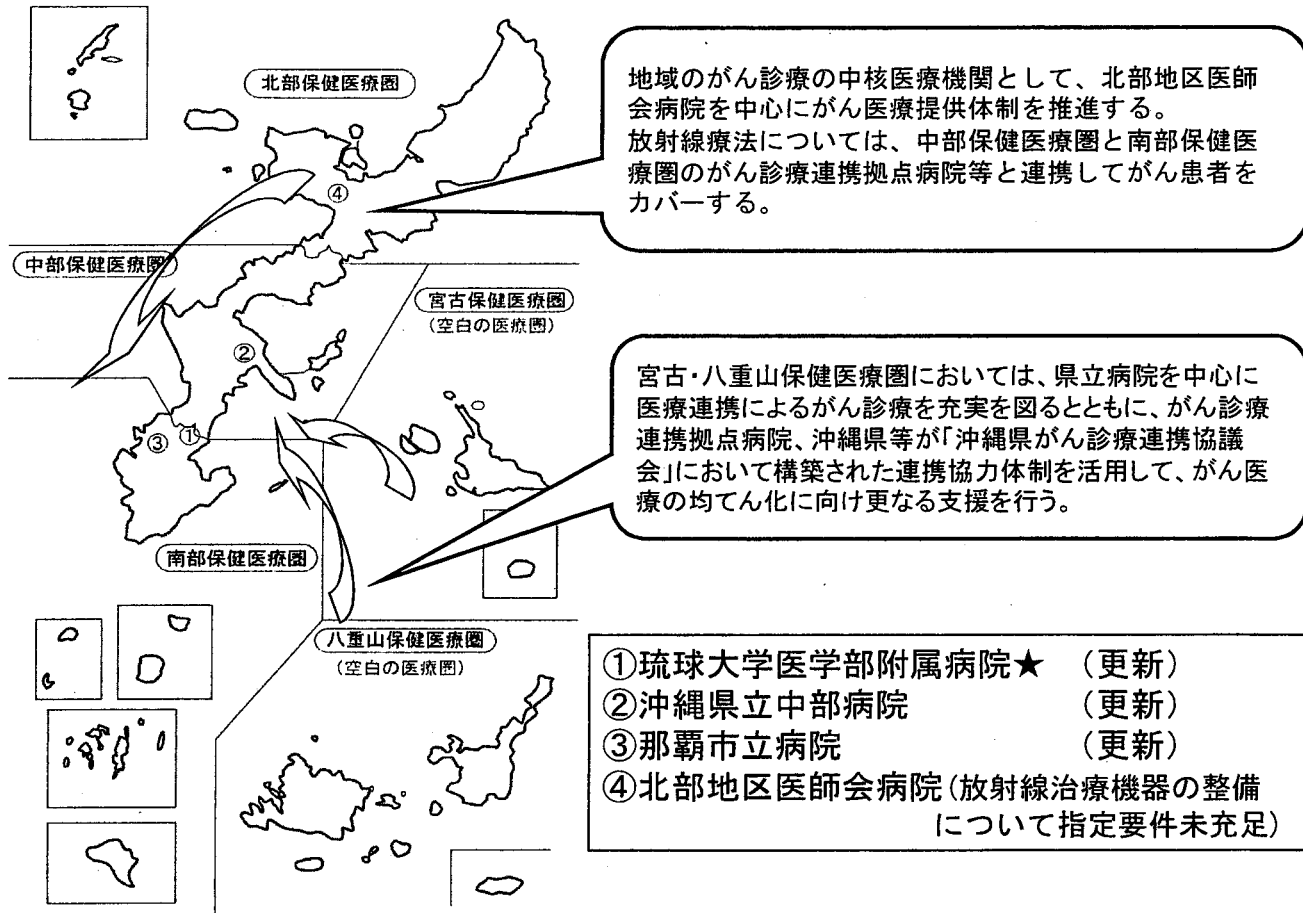
資料 1

沖縄県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がんに係る薬 物療法 (6~7月の集 計)		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域連 携	
			年間新 入院患 者数 (1月 ~12 月)	年間新 入院患 者に 占める がん患 者の割 合(%)	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)		薬物療法のべ 患者数					
					悪性腫 瘍手術 総数	開経手 術	胸腔鏡 下手術	開腹手 術	内視鏡 手術 粘膜切 除術 (EMR)	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	ラジオ 波焼灼 療法	乳癌手 術	乳房再 建術 (乳房 切除 後)二 期的に 行うも の	体外照 射				小線源 治療
1	★ 更新	琉球大学医学部附属病院	(2,088) 1,468	(24.7) 16.9	(160) 145	(0) 0	(1) 3	(0) 2	(0) 1	(5) 7	(1) 0	(3) 10	(0) 1	(3) 5	(0) 0	(456) 458	(0) 0	(0) 52	(0) 86	(8) 31	(0) 5	(0) 0
2	更新	沖縄県立中部病院	(1,477) 2,243	(9.9) 16	(50) 41	(0) 2	(2) 1	(4) 1	(0) 0	(16) 2	(1) 3	(2) 0	(0) 0	(6) 2	(0) 0	(218) 255	(0) 0	(73) 52	(61) 80	(17) 16	(36) 30	(4) 7
3	更新	那覇市立病院	(611) 359	(5.9) 7.3	(66) 104	(0) 2	(0) 0	(2) 3	(0) 0	(1) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(10) 8	(0) 0	(162) 221	(0) 0	(60) 55	(50) 69	(9) 19	(43) 29	(0) 8
4	辞退	北部地区医師会病院	(687) 497	(13.2) 10.6	(5) 15	(1) 0	(0) 0	(2) 1	(0) 0	(1) 2	(0) 4	(0) 0	(1) 0	(7) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(14) 47	(60) 40	(8) 3	(5) 16	(0) 0

沖縄県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 がん診療連携拠点病院の整備に関する基本的な考え方

沖縄県では、これまで県内の5つの2次医療圏中、平成18年度までに沖縄本島3医療圏（北部・中部・南部保健医療圏）で地域がん診療連携拠点病院を整備し、平成19年度には都道府県がん診療連携拠点病院の整備を行い、がん医療の均てん化を推進してきました。

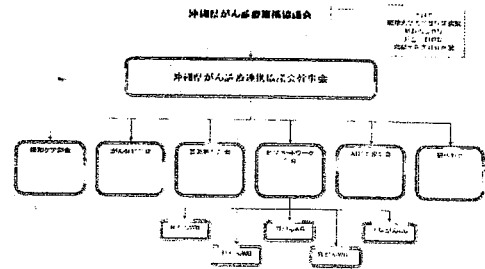
平成20年3月に策定した「沖縄県がん対策推進計画」においても、がん診療連携拠点病院を中心的役割として位置づけ、がん医療対策の総合的かつ計画的な推進を図ることとしており、平成20年度から都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院に設置している「沖縄県がん診療連携協議会」において、がん診療連携拠点病院を中心に、県、専門的がん医療機関、関係団体等の連携協力体制のもと、がん医療提供体制の構築が図られつつあるとところです。

本県の全てのがん診療連携拠点病院については、平成20年3月に示された「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づき、平成21年度末までの「みなし指定」となっておりますが、各保健圏域におけるがん医療提供体制及び指定充足状況等を勘案し、指定更新の推薦を行うこととしております。

2 沖縄県のがん医療対策におけるがん診療連携拠点病院の取組

本県のがん医療対策については、沖縄県がん診療連携協議会及び専門部会において、がん診療連携拠点病院が連携し、県、専門的がん医療機関、関係団体等の協力体制のもと、「緩和ケア」については、国の指針に基づくがん診療を担う医師を対象とした緩和ケア研修会の各保健医療圏域での企画・実施、緩和ケアに関する意識調査及び現況調査の企画、「地域がん診療体制の構築」については、平成21年11月20日に5大がんに関する地域連携クリティカルパスの作成・医師等を対象とした研修会の開催、がん早期診断のための医師向け研修会の企画・実施、「相談支援」については、県全体のがん種別セカンドオピニオンリストの作成、各医療機関のがん相談実務者リストの作成によるネットワークの構築、がん患者向け情報書（がん患者必携）の作成を行っております。また、がん検診等の普及啓発、がん登録、各がん診療連携拠点病院でのがん患者サロン・タウンミーティングの開催を行うなど、中心的役割を担っております。

さらに、離島医療圏域（宮古・八重山保健医療圏）においても、県立病院と連携して平成22年2月に緩和ケア研修会の開催、地域連携クリティカルパスの研修会の開催を予定しており、がん医療の均てん化推進に積極的な取組を実施しているところです。



-301-

3 がん診療連携拠点病院の概要

(1) 琉球大学医学部附属病院（都道府県がん診療連携拠点病院）

琉球大学医学部附属病院は、平成20年2月に都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、「沖縄県がん診療連携協議会」を設置し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、離島医療圏域を含め本県のがん医療提供体制の構築に積極的に取組むなど、中核的な医療機関として機能しています。また、県内唯一の医師養成機関であり、文部科学省の「九州がんプロフェッショナル養成プラン」に参加しているほか、がん専門薬剤師研修施設の認定を受けており、県内における質の高いがん医療の確保に貢献しております。

拠点病院の指定要件については、5大がんに関する院内クリティカルパスの整備について、電子カルテシステムへの移行に伴う不具合により、未整備の状況となっておりますが、平成21年1月までには整備を行う予定となっており、より高度ながん医療の提供、専門医師等の育成、地域医療機関への診療支援など、今後も本県においてがん診療体制の中核的役割を担っていくことが期待されています。

(2) 沖縄県立中部病院（地域がん診療連携拠点病院：中部保健医療圏）

県立中部病院は、本県医療の基幹的機能を有する病院として、全圏域を対象に救命救急機能や高度・特殊医療を提供する役割を担うとともに、平成19年1月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、これまで、集学的治療による診療体制、緩和ケア体制の確保、がん診療従事者への研修体制、相談支援体制の整備など、中部圏域におけるがん医療の均てん化を推進してきました。さらに、放射線治療に関しては北部医療圏の地域拠点病院や中部医療圏内の他の地域医療支援病院からも依頼を受けるなど中心的な役割を果たしています。

指定要件の充足状況については、5大がんに関する院内クリティカルパスの整備について、未整備の状況となっておりますが、平成21年12月に整備しており、今後も中部保健医療圏のがん診療体制の中心的役割を担っていくことが期待されています。

(3) 那覇市立病院（地域がん診療連携拠点病院：南部保健医療圏）

那覇市立病院は平成17年1月にがん診療連携拠点病院の指定を受け、平成20年2月に指定更新を行っております。

これまで、集学的治療による診療体制、緩和ケア体制の確保、がん診療従事者への研修体制、相談支援体制の整備など、がん医療の均てん化を推進するとともに、がん患者サロンの設置を行うなど積極的ながん患者支援の強化を図っています。

今後も本県南部保健医療圏のがん診療体制の中心的役割を担っていくことが期待されています。

(4) 北部地区医師会病院（地域がん診療連携拠点病院：北部保健医療圏）

北部地区医師会病院は、平成17年1月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成20年2月に指定更新を行っており、本県の北部保健医療圏域のがん診療体制の中心的役割を担っています。

指定要件である、放射線治療機器および設置室の整備については、放射線療法診療従事者の配置も含め、当該病院、県及び県内のがん専門化で構成する沖縄県がん診療連携拠点病院検討会の中で検討を進めてきました。

その結果、本県において、すでに近隣の中部圏域2台、南部圏域5台のリニアックが整備されており、当該病院が県内の地域がん診療連携拠点病院と連携しながら放射線治療を提供している現状であること等から、当該北部保健医療圏域における治療手段としてのリニアック等高額医療機器の整備の必要性は低いと判断しております。

集学的治療の提供体制と標準的治療の提供については、肺がん以外の手術療法、化学療法の実施、相談支援や緩和ケアチームにて対応を行っており、肺がんについては、手術は現在実施できておりませんが、化学療法が必要な患者については当該病院で実施するなど、他の医療機関と連携を取りながら集学的治療の提供及び標準的治療等の提供を行っております。また、呼吸器外科開設についても現在検討している状況です。

今後も、各がん診療連携拠点病院等との連携協力により継続的な専門的がん医療を提供する体制の構築、緩和ケア体制の確保など、北部保健医療圏域におけるがん医療の均てん化の推進を担うことが期待されています。